

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)
／山田 啓明

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

近年、大学院の長期履修生で『保育内容(表現I)』を履修する学生が極端に増加し、授業の質を保てない心配が生じたので、今年はやむなく授業をA,Bの2クラスに分けて開講する事にした。それを軌道に乗せるようにしたい。また昨年は引き継ぎの都合上単にオブザーバーとして参加した実技能力育成論演習の授業にも正式に授業担当者として加わる事になった。初めて担当する授業であるが、教職を目指す学生にとって助けとなる様、努力したい。

2. 点検・評価

予定通りに『保育内容(表現I)』を学部と学部以外(院生)A, Bの二クラスに分けて授業を行ったので、昨年度よりきめ細かな指導が行なえた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

昨年度より新たな組織として発足した教職キャリア支援センターの音楽実技分野の教員として、主として小学校の教員採用試験を目指す学生の弾き歌い実技に関するサポートおよび芸術棟6階のピアノの管理について円滑な運営を心がけたい。なお、毎年行なっている希望者への聴音指導を23年度も行なう用意がある。また学内演奏会係として、年2回の学内演奏会および卒業・修了演奏試験を成功に導きたい。

2. 点検・評価

教職キャリアセンターの教員として音楽実技分野の運営, および芸術棟6階のピアノの管理, また2回の教職を行なった。また、徳島県の教員採用試験を受験する学生2名のために聴音の特別指導を行い, また学内演奏会係として, 前期後期2回の学内演奏会と, 卒業・修了演奏試験も無事成功裏に終えることができた。

II - 2. 研究

1. 目標・計画

平成23年度において現在確定している演奏活動の内, 主なものを挙げる。

6月5, 6日鳴門の第九

7月2日セタコンサート

7月24日小川明子サロンコンサート

9月28~30日中田喜直歌曲CDレコーディング

12月18日大分大学医学部管弦楽団定期演奏会

3月7日小川明子静岡リサイタル

2. 点検・評価

6月の第九の演奏会(指揮)は成功裏に終わったが, その一部がNHKの教育番組においても放送されたそうである。またその他予定していた演奏会も無事に終え, 3月25日には中田喜直の歌曲を集めてCDが発売された。

II - 3. 大学運営

1. 目標・計画

23年度は新たに学部入試委員を務める。

2. 点検・評価

学部入試委員の1年目を無事に務め上げることができた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

平成22年には鳴門の「第九」のソリストオーディションの審査員を務めた。また徳島県の合唱のアンサンブルコンテストの審査員も務めた。今年も同様の要請があれば出向く所存である。

2. 点検・評価

第34回全日本おかあさんコーラス四国支部徳島大会審査員およびサンポート高松デビューコンサートの審査員を務めた。また教育実践フィールド研究と附属中学校のLFタイムをリンクさせ、大学院生によるアウトリーチ活動を行なった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特別に本学のための貢献という訳ではないが、演奏会のたびにチラシやプログラムのプロフィールで自身が鳴門教育大学に勤務していることは強調しているし、また7月の七夕コンサートでは受付に大学院のパンフレットを置く等して本学の宣伝には努めているつもりである。